

厚生労働省委事業 先駆的保健活動交流推進事業

生活習慣病予防活動支援モデル事業での取り組み
ーモデル事業の取り組みから見えてきた保健師の力量形成ー

社団法人 日本看護協会
事業開発部 塚尾 晶子



Japanese Nursing Association Department of Professional Service Development

1. 生活習慣病予防活動支援モデル事業の目的

平成19年度

平成20年度

平成21年度

1. 効果的な生活習慣病予防のあり方の検討

効果的な保健指導
プログラムの実践、
精練、普及

効果的な保健事業の
展開についての検討

ホピュレーションアプローチ
とハイリスクアプローチの
効果的な運動に関
する検討

2. 保健指導の評価のあり方に関する検討

JNAグループ支援
や個別支援におけ
るアウトカム評価の
実施

平成19年度からの継
続調査の実施
評価の枠組みの整
理、新質問紙の作成

平成19年度からの継
続調査(2年後)の実施
平成20年度(特定)保
健指導参加者の分析

3. 保健師の力量形成に関する検討

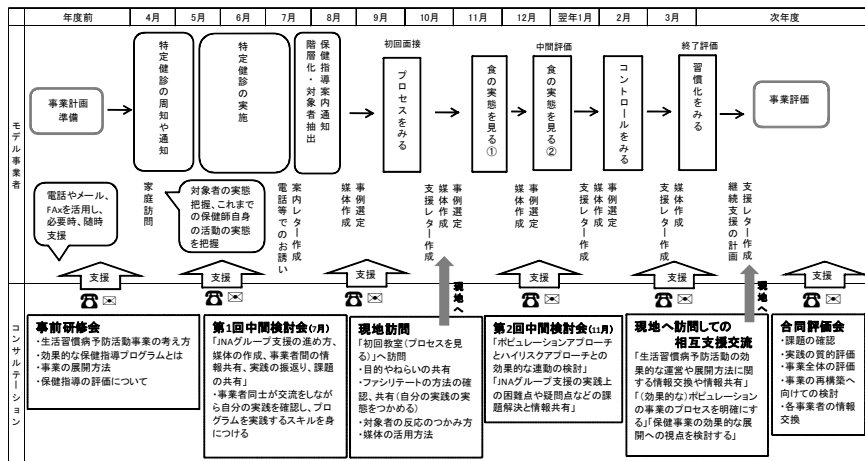
保健指導の実践や様々な検討を通し、保健師が力をつけていく過程を検討

平成19年度から平成21年度のモデル事業実施スタッフ及び参加者数

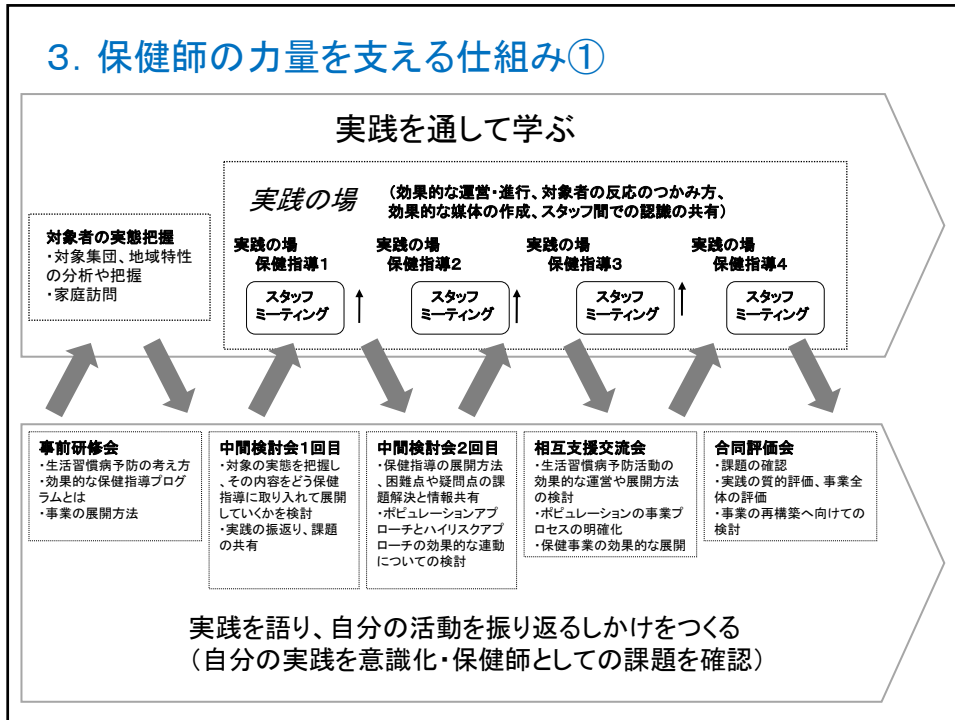
モデル事業 参加年度	県名	モデル事業者	所属	事業実施スタッフ数(実人数)					参加者数(実人数)			
				保健師	看護師	管理栄養士 栄養士	その他	合計	H19年	H20年	H21年 (予定)	合計
19	神奈川	横浜市	衛生局保健年金課 港南福祉保健センター	3	1	4	1	9	19	-	-	19
19	山口	岩国市	保健センター健康管理課	5	0	1	2	8	50	-	-	50
19	北海道	美幌市	保健センター健康推進課	5	0	1	0	6	17	-	-	17
19	福島	喜多方市	民部保健課	4	1	2	1	8	32	-	-	32
19	三重	鈴鹿市	保健センター	4	1	3	0	8	26	-	-	26
19	島根	松江市	健康まちづくり課	5	1	2	1	9	19	-	-	19
19	宮崎	綾町	綾町役場	3	1	3	1	8	45	-	-	45
19	鹿児島	与論町	保健センター	2	5	5	2	14	33	-	-	33
19-20	石川	七尾市	健康福祉部健康推進課保健センター	11	1	3	0	15	65	20	-	85
19-20	大阪	東大阪市	中保健センター	5	1	5	1	12	35	13	48	96
19-20	長崎	五島市	健康政策課	10	0	5	0	15	57	38	14	109
19-21	宮城	柴田町	健康福祉課	7	0	2	1	10	46	65	50	161
19-21	兵庫	洲本市	健康増進課	20	9	2	1	32	88	103	200	391
20-21	茨城	筑西市	健康増進課	7	2	4	0	13	-	958	394	1,352
20-21	青森	むつ市	疫所健康推進課	10	3	2	0	15	-	84	200	284
21	茨城	行方市	玉造保健センター	3	0	3	0	6	-	-	112	112
21	兵庫	淡路市	健康福祉部健康増進課	11	0	4	0	15	-	-	125	125
21	奈良	天理市	保険医療課	3	2	1	0	6	-	-	10	10
21	大分	国東市	保健センター	5	2	2	0	9	-	-	30	30
19	東京都	オリンパス㈱	石川総務グループ	2	5	2	3	12	19	-	-	19
19	静岡県	浜名湖電装㈱	人事総務部医務室	4	1	6	0	11	31	-	-	31
19	三重	四日市看護医療大学		3	0	0	2	5	56	-	-	56
20	愛知	西日本電信電話㈱	東海健康管理センター	11	2	0	0	13	-	54	-	54
20-21	東京	INAグループ健康保険組合	健康推進部	4	1	2	6	13	-	31	200	231
地域 19事業者、職域 5事業者				147	39	64	22	272	638	1,366	1,383	3,387

スタッフ数：事業を実施したスタッフの実人数。
 ※平成19年度20年度モデル事業報告書、もしくは、平成21年1月現在で事業者より報告があった数値。
 参加者：モデル事業に参加した参加者の実人数。
 ※平成19年度20年度モデル事業報告書、もしくは、平成21年1月現在で事業者より報告があった数値。H21年度データは年間実施計画時点と平成21年度1月現在の実績をふまえた年度内の参加予定数。

2. 生活習慣病予防活動支援モデル事業の展開



3. 保健師の力量を支える仕組み①



モデル事業に参加した保健師の経験と振り返り

□モデル事業への応募動機

自分たちの支援方法を変えていく必要があると感じていた。

これまでの保健指導事業に限界を感じていた。

□家庭訪問や面談

生活習慣病に至った住民の実態、たどったプロセスをあらためて把握するための訪問

- 住民と保健師の認識の違いの大きさに気付いた。
- 正しい情報を提供することより、自ら問題として気づく過程のほうが大切
- 自覚症状のない段階で生活習慣を変えることの難しさを実感



モデル事業に参加した保健師の経験と振り返り

□事前研修会、スタッフミーティング、コンサルテーション、拡大スタッフ会議

- スタッフ間の理解を深めるためにも実践とその振り返りの場が大切



Japanese Nursing Association Department of Professional Service Development

モデル事業に参加した保健師の経験と振り返り

□保健指導で使用する教材の作成

- 知識を教える保健指導からの転換
- 自発的に習慣を変える保健指導の実践へ



Japanese Nursing Association Department of Professional Service Development

モデル事業に参加した保健師の経験と振り返り

□保健指導の実践(教室の開催)

- 知識をどう伝えるかというよりも、参加者自身がどう気づいていくかが大切
- 住民同士で取り組むことで思いがけない力になってくる。グループ・参加者のエンパワーメントを実感した



Japanese Nursing Association Department of Professional Service Development

モデル事業に参加した保健師の経験と振り返り

□中間検討会・相互支援交流会

保健師自身の指導習慣に気づく

- 実践の中で、知識提供型の指導に戻りそうな自分がある。その無意識の「指導習慣」に対する気づきを再認識できる場
- 他の事業者の実践を知ることでの大きな学びと自分たちだけでは気づかないことを多く教えてもらう
- 検討会を重ねたり、発表の機会を得ることで、自分たちの実践をまとめ活動を振り返ることで、スタッフ同士の気づきも深まってくる



Japanese Nursing Association Department of Professional Service Development

モデル事業全体を通して

- 住民と保健師の「教える・教えられる」関係がの変化。
- 事業の実践を振り返り確認していくプロセスを経験し、手ごたえを実感し、保健師としてのやりがいを感じる。
- 事業の効果を見せることの重要性を認識する。
- 新しい事業に取り組むことは大変である。しかし、保健師同士が刺激し合い高めあえる。
- ポピュレーションアプローチの重要性を認識



Japanese Nursing Association Department of Professional Service Development

3. 保健師の力量を支える仕組み②

- 保健活動の実践を軸として、自分の実践をオープン化しながら振り返る仕掛けにより、スキルアップが図られる
- 現場の専門職同士での交流の場等で、他者との対比や客観的な意見をもらうことにより、自分の実践の手ごたえを実感し、実践の方向性の確信を深め、経験を強化できる



Japanese Nursing Association Department of Professional Service Development

厚生労働省委託事業 先駆的保健活動交流推進事業 「生活習慣病予防活動支援モデル事業」報告書

- 平成19年度先駆的保健活動交流推進事業「生活習慣病予防活動支援モデル事業報告書」
- 平成19年度先駆的保健活動交流推進事業「生活習慣病予防活動支援モデル事業報告書 実践事例集」
- 平成20年度先駆的保健活動交流推進事業「特定保健指導・コンサルテーション受託事業パイロットスタディ事業報告書」
- 平成21年度先駆的保健活動交流推進事業報告書「保健師が推進する生活習慣病予防活動」

社団法人日本看護協会公式ホームページ
(発行物のご案内→先駆的保健活動交流推進事業)
<http://www.nurse.or.jp>



Japanese Nursing Association Department of Professional Service Development